



鶉鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成25年新年号(39号)



「連携の強化を願って」

岐阜保護観察所長

古川芳昭

保護観察所では、平成16年から、断薬を継続している事実を定期的・客観的に確認することによって、本人の断薬意欲の維持・向上を図ることを目的とした簡易薬物検出検査を、平成20年から、認知行動療法に基づいた覚せい剤事犯者処遇プログラム（平成24年10月からは規制薬物一般を対象としたプログラム）を導入し、規制薬物の使用を反復する傾向が強い人たちに対する働き掛けを強化しています。まだ緒に就いたばかりですが、その効果についても検証されつつあるところではあります。

ダルクプログラムにおいては、薬物依存の苦しみを心の底から共感できる感受性を持った仲間がいるという環境の中で、ミーティングに参加している仲間が互に鏡となり、改めて自分を見つめ直すことができるということや、同じ目の高さから良い影響を与え合うグループダイナミクスの効果が期待できるということ等、司法関係機関では設定困難な場面を構成できます。仲間どうしが、本当に自分のことを理解してもらえているんだという信頼感と安心感を抱かせる対応をされておられますが、その技法は保護観察官や保護司の面接場面でも大変参考になるものです。

保護観察所などの司法関係機関は、本人の外側から断薬のための働き掛けを行っておりますが、ダルクプログラムとも一体となることができれば、一層効果的に内発的な変容を促進し、薬物を使用しないという行動化＝依存からの回復につながっていくと思われれます。

依存からの回復というゴールに到達するまでには、長く険しい道のりがあるはずですが、司法関係機関が関わりを持つことができる期間は限られていることから、それが経過した後は、ダルクなどにゴールまでの伴走をお願いせざるを得ません。この点からも私たち保護観察官は、ダルクとの連携を強化していかなければなりません。岐阜ダルクの皆様方におかれましては、ミーティングの委託や家族会への参画などの他、これまで以上に様々な場面での連携を強化いただきますようお願いいたします。

仲間の体験談

ヒロシ



薬物依存症のヒロシです

新年、明けておめでとうございます 毎年、毎年覚醒剤とともに十八年間お正月を迎えてきましたが何とか今年には覚醒剤ナシのお正月を迎える事が出来ました。

昨年は覚醒剤を止める為いろいろな事に挑戦してみました。その一つがダルクへ通所する事でした。そもそも僕がダルクを知ったのはまだ覚醒剤を毎日使い生活していた頃にテレビを見て知りました。その時の感想は薬をやめたいなんて思う人がいるのかと思いつつながら、薬を使いながら観ていました。僕は覚醒剤で過去に逮捕された事がありますが、薬を止めようなんてまったく思わなかったから裁判で執行猶予になり次第、すぐ薬を使いだし生活をしていました。そして十四年後、二度目の覚醒剤で捕まりました。この時さすがにもう薬は止めようと思いましたが、しかしそう簡単に止める事が出来るかなど不安もありました。そんな中、弁護士がダルクへ行ってみればと進めてくれました。薬が止めれるならダルクへ行こうと思いつつ通所する事にしました。ダルクへ行き、驚いた事は携帯はダメ、車もダメ、仕事もダメ、休みナシで『え〜嘘でしょ』と言う感じでしたが、まだ今回の覚醒剤の裁判がある為、この条件を受け入れダルクへ行きました。

毎日のプログラムにミーティングがあり、仲間たちの前で過去どんな事をしてきたか正直に話をしますが、人前で話す事はすごくはかしく嫌な事でした。しかしミーティングで話す事によって、自分が今までしてきた事がいかにバカらしい事だったのか思いしらされ、また反省にもなっていました。午後からは運動プログラムがあり長良川を走るのですが 始めは全く走る事が出来なく毎日筋肉痛で大変でした。それでも毎日続ける事で走る距離は伸び体重は減り筋肉痛もなく体が楽になり健康になりました。でも一人で運動してたらこころではきっと出来なかったと思います。仲間と一緒にだったからやる気にもなれ、頑張れたのだと思いました。自分一人では無理でも仲間と一緒になら頑張れた事にすごく仲間たちに感謝しています。

一日の最後のプログラムはまたミーティングです毎日違う場所へ電車に乗りミーティング会場へ行くのですが、はじめはとても面倒くさく感じていましたが、そこには僕と同じように薬をやめ回復中の仲間がたくさんおりミーティングで仲間の話を聞いて分かち合い、たくさんの仲間が出来ました。みな薬を止め毎日一生懸命生きてる姿を見てすごく輝いて見え、改めて僕も薬を使わずに生きて行きたいと思うようになりました。そこには希望がありました。

そして一番気がかりだった裁判もダルクへ通所している事もあり、もう一度社会で回復して下さいと執行猶予判決がもらえました。今、こうして自由に社会で暮らす事が出来るのも本当にダルクのおかげだと思います。またダルクへ行く事によって、薬を使わなくても社会で生活していく自信が持てるようになりました。今まで嫌な事があれば薬の方へ逃げていましたが、これからはどんな事でも逃げださず頑張っていきたいと思えます。また再び薬に手を出さないようにするには、毎日のミーティングに必ず参加し続けることだと思っています。

女性ハウス設立のご協力に感謝

施設長 遠山香



昨年3月から、女性ハウス設立のための寄付金を本格的に集めるため、岐阜ダルクを今まで支えてくださった教会を中心にお願いに回り始めました。さらにダルクの仲間たちも、日曜日のたびにあちこちの教会で女性ハウス設立のお願いと募金活動にまわってくれました。講演先でも資料を配布し寄付のお願いをしました。

理事長と相談し、カトリック中央協議会カリタスジャパン様への支援金のお願いをするため五反城カトリック教会の神父様を訪ねました。はじめは断られましたが、ここで引き下がるわけにはいかないと思い、今までの経過や自助努力してきたことなど切々と訴えると、だまって聞いて下さって「わかりました。申請が通るかかわかりませんが出してみましょ」と言い協力して下さいました。真夏のうだるような昼下がり、教会の玄関を出たところで吹いてきた生暖かい風が、なんとも清々しい風を感じたことを思い出します。申請が通った時は本当にうれしかったです。

また、国際ソロプチミスト岐阜の皆様や池田・神戸ライオンズクラブの皆様からの心強いご力もありました。こうして少しずつお金が集まっていきました。

一方ダルク後援会では、岐阜ダルク女性ハウス設立準備基金の口座を開設し、ニュースレターに振込用紙を同封し寄付金を集めていただきました。

ダルク後援会には岐阜保護観察所の方も参加して下さい、設立準備基金を集めるためにいっしょになって考えてくださり、保護司連合会の会長様をはじめ保護司の皆様や更生保護女性会の皆様へ寄付を呼びかけていただきました。紙面には書ききれない多くの方々のご協力をいただき設立準備基金が集まり、感謝の気持ちでいっぱいです。

ところが、物件の方がなかなか見つかりません。岐阜ダルク設立時は理解のある大家さんにすぐに出会えたため、物件探しで苦労するとは思っていませんでした。

岐阜市内の教会に、物件情報の張り紙を貼らせていただきました。新聞記事での情報を呼びかけることで電話もありましたが、地理的なことや金額が高く断念せざるを得ませんでした。昨年12月には物件契約をするという計画は叶いませんでした。

あちらこちらの不動産会社にダルクの資料を持って説明に回りました。理解の得られそうな大家さんをひとりひとり説得してもらっています。大家さんと不動産会社の電話のやりとを間の当りにし、社会の薬物依存症に対する無理解と偏見を痛感する日々が続きました。しかし、やっとここ最近、何件か紹介してもらうことができました。

薬物依存症のことをきちんと話した上で、理解をしてくれる大家さんに出会うとうれしくなります。今は家賃の値下げを交渉中です。(理解をしてくれるだけでも充分・・・いや、でもこれから続けていくために少しでも安い家賃で借りたい・・・)

2月末には女性ハウスの責任者を担ってくれる仲間が宮崎から来ます。以前、宮崎ダルク女性ハウスで10年を過ごした経験のある仲間です。地元、九州を離れて、右も左もわからない岐阜で働くことを決めた仲間。とても勇気があることだと思いますが、一緒に働く事がとても待ち遠しいです。

3月3日、予定では開設フォーラムを開催する予定でしたが物件はまだ決まりませんので、設立準備フォーラムを開催します。

かねてから岐阜ダルクを支えていただき、地域の中で、パワフルに活動しておられる魅力的な女性の方々をお招きし、「磨こう生き生き女子力」というテーマでお話していただきます。岐阜ダルクの女性の仲間達の回復の体験談もあります。どうか岐阜ダルクの新しい門出となるフォーラムの応援よろしく願います。ぜひとも会場に足を運んで下さいますよう心からお待ちしています。

12月3日(月)
岐阜市 ふれあい
福寿会館にて

パネルディスカッション

テーマ 「薬物依存者の社会復帰に向けて」

岐阜県の助成を受けて開催いたしました



保護観察所における今後の取り組みについて講話

薬物依存は治療可能な脳の病気で！



岐阜県より薬害被害及啓発事業の助成を受けて、テーマ『薬物依存者の社会復帰に向けて』と題して岐阜保護観察所と岐阜ダルクの共催でパネルディスカッションを開催しました。保護司の研修会を兼ね総勢220名の方々に参加して頂き盛況にパネルディスカッションを行うことが出来ました。コーディネーターに保護観察所の長尾様、パネリストに保護観察所酒井様、京都府立大学准教授山野様、岐阜ダルク責任者、刑務所を出所後の薬物依存者の家族の支援の現状と今後の課題を検討しました。

見張る事と見守る事の違いを山野先生にわかりやすく教えて頂き大変為になりました。



寄付金65,594円が集まりました。女性ハウス設立準備基金として大切にさせていただきます

パネルディスカッションアンケート結果

- 薬物依存症は脳の病気であると言う事を教えて頂き、何となく心が楽になりました。
- 薬を止めさせることを目的にするのではなく、ずっと使わない生活を構築させることなど分かって良かった。
- 私は家族ですが、心が軽くなりとても参考になりました。
- 本人、家族の生活を大切にすることの大切さを改めて重要だと思いました。
- 実体験の話をもっと聞かせてほしかったです。
- 脳の病気である事を自覚し、生き方を変える事がいかに大切か、わかりました。
- 依存症＝病気の考え方は思ってもよらなかった
- 薬物依存が治療可能な脳の病気という言葉に、新たな見方を教えられた。また家族に対して、管理、監視することを要求するのではなく、良い相談相手、話し相手になれるようにしたいと思った。
- 本人を見張るのではなく見守る事が大切であると言う事がわかりました。
- 保護司の方が薬物依存症についてあまり勉強されていない実態を感じました。
- 保護司とダルクの支援の違いがよくわかりました。
- 建前でなく本音で指導の在り方を勉強したかった。
- 確かにダルクには興味があります。しかし理解は出来ない。頭の中にある？を聞ける機会があるとよいです
- 本人、家族の考え方や、司法、行政の人たちにこれだけ考え方が違うことに驚いた。
- 家族が心身ともに健康な状況に居る事が、本人の自律更生に役立つとの認識を強くすることが出来た。
- 具体的な活動、状況、効果を聞き、家族会の必要性を実感しました。

12/15 香川ダルクフォーラム



ご飯を食べながら仲間と楽しくフェローシップ♪

最後に香川名物のうどん屋の前で記念撮影しました



12/23 岐阜ルーテル教会クリスマス会



教会の人と楽しく触れ合いました♡

12/20 歳末たすけあい贈呈式



今年も例年に続き、岐阜市社会福祉協議会様より助成金を頂きました。東海地区ダルク新年交流会に使わせて頂きました。ありがとうございました。

12/31 NAギャザリング参加



ジェスチャーゲームは恥ずかしょ♡

活動報告

12月

- 1日 NAルーテグオープンスピーカー参加
- 2日 岡崎カトリック教会・活動紹介
- 3日 パネルディスカッション
- 4日 池田・神戸ライオンズクラブ例会
- 5日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 6日 ダルク後援会会議
ニューズレター発送作業
- 7日 岐阜経済大学地域経済研究所公開講演会・講演
- 8日 薬物電話相談日
- 9日 笠松キリスト教会・活動紹介
- 10日 大垣ルーテル教会クリスマス会
- 12日 社会的居場所事業・会議
更生保護施設指導職員他施設派遣研修
- 14日 野宿生活者支援ボランティア
- 15日 香川ダルクフォーラム参加
- 17日 依存症フォーラム
(布池カトリック教会)
- 18日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 20日 歳末たすけあい贈呈式
- 22日 薬物電話相談日
NA月の風Gクリスマス会参加
- 23日 岐阜ルーテル教会クリスマス会
- 31日 NA中部エリアギャザリング参加

1月

- 1-2日 NA中部エリアギャザリング参加
- 8日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 9日 薬物電話相談日
- 9-10日 豆ノホネット研修会
- 11日 野宿生活者支援ボランティア
- 12日 薬物電話相談日
- 16日 社会的居場所事業・会議
- 17日 ダルク後援会会議
- 21-22日 ダルク新年会
- 23日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 26日 薬物電話相談日
- 28日 ニューズレター印刷作業
- 30日 ニューズレター発送作業

今後の活動予定

2月

- 5日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 8日 野宿生活者支援ボランティア
- 9日 薬物電話相談日
- 依存症を学ぶ集い
- 13日 薬物電話相談日
- 16日 NA中部エリアパブリック
インフォメーション参加
- 17日 友愛教会にて活動紹介
- 19日 保護観察所引受人会
- 23日 薬物電話相談日
- 26日 笠松刑務所薬物離脱指導

3月

- 3日 岐阜ダルク女性ハウス
開設準備フォーラム
- 8日 野宿生活者支援ボランティア
- 9日 薬物電話相談日
- 10日 名古屋ウィメンズマラソン参加
- 13日 薬物電話相談日
- 20日 社会的居場所事業シンポジウム
- 23日 薬物電話相談日



「旅立ち」

岐阜ダルク後援会会長 齋藤幸二

先日名古屋に向かう電車で、「今年こそ、はやめよう、今年こそ」というキャッチコピーの中吊り広告が目にとまった。確かに人間の決心というものはずぐに消えてしまう弱いものかもしれない。しかしその決心を強くする道がある。それは、同じ目標、同じ志を持つ仲間と出会うこと、そして共に歩むことだ。

伝統的なキリスト教会では新年の最初の日曜日に、東方の賢人たちが幼子イエスを礼拝するために旅をした、という聖書の話の説教に取り上げる。賢人たちはイエスに会うために助け合って困難な旅を続け、目的を達成した。

薬物依存症の人たちも自立や社会復帰に向けて歩もうとしている。そのためには同じ目標を持つ仲間と出会い、共に歩むことが必要だ。今はインターネットで会議ができる便利な時代だ。出かけるのは時間もエネルギーも使う。だからといって自分だけの生活に引きこもってしまってはならない。共に集う事には大事な意味がある。私たちが共に集う時、自分の決心や決意だけでは得られない特別な力が与えられるのだ。

さあ、今年も同じ志を持つ仲間たちと出会う。そして新しい自分を目指して一緒に旅立ってゆこう。



香川ダルクフォーラムに♡♡

「ニューズレターの諸々」

各務原病院
ソーシャルワーカー
澤木幾佐



あたいがこよなく愛する岐阜ダルクにて、癒し系の齋藤牧師様と小説家のニヒルな鈴木先生、ダルクメンバーのあやちゃん、こーいち君、イケちゃん、ボランティアの岩佐さん、かおりさん達とニューズレターの発送準備作業をしました。ニューズレターを三つに折り、寄付の紙（これは絶対忘れてはいけないのだ!）と一緒に封筒に入れるのです。岐阜ダルクは人員が少ないので、この作業に凄く時間がかかります。目の前に広がる山のようなニューズレター…。部屋のあちらこちらでニューズレターのなだれが起きている…。呆然と立ちすくむあたり。これが礼束だったらいいのになー。ニューズレターの山の下敷きになりながらジタバタするあたりを横目に非常にときどきと動くみんな。作業隊長あやちゃん（28歳）の指示に「はい!」と返事だけは良いあたり（42歳）。真面目だがあたいの動きはとってもスロー。（だって年なんやもん…涙）しかーややるしかありません。窓の外はどんどん日が暮れてくるし、かおりさんとあやちゃんは足が寒いやらあそこが寒いやらと言っていました。ずっと寒い状態で作業でした。二人とも寒がってマッチ売りの少女みたいにかわいくて健気だった！（胸がキュンとした!）みんなで食べた差し入れのミニシュークリームがおいしかったなー。（遠い目）結局作業は途中で終わってしまいました！澤木としてはハッスルした割に不完全燃焼。（無駄な動きが多かった?）次の日にあやちゃんたちが運動プログラムに行かないで発送作業をすることに…。あたいの働きが悪くてすみません…。（しょぼーん）来月はもっと頑張ります!←立ち直りの速さは誰にも負けないのだ!（なんちゃって）来月はかおりさんやあやちゃんが寒くないように寄付がいっぱい集まって、ストーブがもう少し景気よく焚けたらいいな…。ニューズレターにはみんなの愛がいっぱい入っています！みなさんよろしくをお願いします！

『岐阜ダルク女性ハウス設立準備フォーラム』開催のおしらせ



薬物依存症リハビリテーションセンター・岐阜ダルクでは女性の薬物依存・アルコール依存・リストカット・摂食障害などの依存症からの回復を支援するため、女性の入寮施設設立準備をすすめてまいりました。このたび、開設に向けてフォーラムを開催する運びとなりました。皆様のご来場を心よりお待ちしております
日時：平成 25 年 3 月 3 日（日）13:00～16:30（受付 12：30）
場所：ふれあい福寿会館 大会議室 302（岐阜市藪田南 5-14-53）
参加費：無料（事前申し込み不要）問い合わせ：岐阜ダルク 058-251-6922

♡プログラム♡

- 13:00 ごあいさつ
- 13:30 リレーメッセージ
- 14:45 コーヒーブレイク
- 15:00 女性の依存症者の体験談
- 16:00 女性ハウス責任者ごあいさつ
- 16:30 閉会

リレーメッセージでは・・・
社会福祉法人中日新聞社会事業団岐阜支部・棚橋幸子様、岐阜市・NPO ボランティア協働センター・長谷川香津美様、名古屋少年鑑別所法務教官・鶴飼芳恵様、医療法人杏野会・各務原病院ソーシャルワーカー・澤木幾佐様、毎日新聞岐阜支局記者・加藤沙波様をお招きし「磨こう生き生き女子力」というテーマでお話していただきます。

ご支援のご協力をいただき心から御礼申し上げます

岐阜ダルク寄付金者名(10月17日～12月31日到着分)

永嶋恵美 渡辺英俊 宗教法人カトリック聖マリアの無原罪修道会 田口大輔 カトリック瑞浪教会 カトリック岡崎教会・立垣昭 秋山達雄 茂木幸雄 自民党美濃市支部 可児福音教会 脇若保雄 菊池剛聡 カトリック神宮修道会・多治見教会 日本キリスト改革派岐阜加納教会 久保田芳則 笠松キリスト教会 日本キリスト改革派岐阜加納教会・婦人会 深見登男 岡田喜美江 奥田隆一 吉田和郎 松井康代 司教・野村純一 杉山賢 幼き聖マリア修道会 千田知栄 河合博 土田弘子 舟護士・神谷慎一 同盟福音基督教會・岐阜キリスト教会 金沢聖霊修道院 市岡多賀賜 日本キリスト教会・大垣教会・代表役員有賀文彦 清水宗夫 日本キリスト教会・岐阜教会 聖パウロ女子修道会 河崎博 亀田公子 カトリック宮教会バザー実行委員会 北谷雅春 山田七緒子 池谷浩司 朝日新聞・志村英司 保護司・片岡由美子 安藤恭子 如来寺・本多岳明 池田時造 原政子 澤田一馬 上田洋子 大垣ルーテル教会・教会学校 同盟福音 笠松キリスト教会の皆様 大垣キリスト教会市民クリスマス参加の皆様 安西玲子 養清興業株式会社 飯尾悦子 朝日大学・宮坂果麻里 国際ソロプチミスト岐阜 早野正冬史 早野未有希 匿名者多数

献品者名

岡本敏孝 日置芳男 一般財団法人名古屋YWCA岩田えり子・近藤真由美 日本キリスト大垣教会 清水治明

女性ハウス寄付金者名(11月15日～12月31日到着分)

加茂保護司会・中西東峰 茂木幸雄 清水章子 藤原淳子 林三枝子 井上正 日本福音ルーテル大垣教会・柴田るみ子 秋山きよ 自民党美濃市支部 くまざき内科医師・熊崎廣 河合潔 後藤和子 青井初恵 田中敏治 金沢聖霊修道院 菊本舞 柴田悦子 舟護士・伊藤知恵子 今井扶美子 永嶋恵美 松井康代 カトリック南山教会所属「樹の会」・加藤洋子 清水宗夫 池谷あかね 脇若保雄 深見登男 市岡美佳 杉山賢 北谷雅春 原政子 吉田哲夫 宗教法人龍現寺代表役員・今尾宗博 柳原利美 安藤恭子 河合正嘉 関美濃保護区保護司会・安田好良 越前地区保護司会・北畑豊秀 保護司・片岡由美子 加茂保護司会・安藤恵美子 山県地区更生保護女性会・会長大橋俊子 山県地区更生保護女性会 大垣保護区保護司会・会計小倉豊子 養老保護区保護司会 塚本恵一 渡辺眞帆 羽島地区更生保護女性会・吉田加代子 菊池剛聡 Mr. T. K i n T o k y o カトリック岡崎教会の皆様 カトリック五反城教会の皆様 池田・神戸ライオンズクラブ様 カトリック港教会の皆様 早野正冬史 早野未有希 匿名者多数

※お名前記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいりますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

※岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

※女性ハウス設立準備基金 郵便振替口座 00820-3-207230 岐阜ダルク女性ハウス設立準備委員会

宗教法人カトリック中央協議会カリタスジャパン様へ事業名：岐阜ダルク女性ハウス設立支援の申請をしました。

申請が認められ100万円の援助金をいただくことができました。

おかげ様で目標金額を超え、女性ハウス設立準備基金は1月15日付けで4,560,202円集まりました。ご賛同いただき、ご協力いただきました多くの皆様方から感謝いたします。

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-251-6922
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://softopia.gifu-keizai.ac.jp/~darc/>
2013年 岐阜ダルクニュースレター平成25年新年号 (No.39)
定価 1部 200円
編集責任者 遠山 香
発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター